



大内中だより

さつきの丘

【学校教育目標】

「あいさつ日本一を目指して」

令和5年9月1日 第20号

大中祭に向けて オリエンテーションを実施

30日の午後に、生徒会事務局の皆さんが大中祭(9/30)に向けてのオリエンテーションを行いました。今年度の大中祭テーマ「千紫万紅～自分たちの色で染め上げろ!～」の紹介や、ステージ発表の内容の説明等がありました。生徒会長の〇〇〇〇〇さんからは「来校した家族や地域の方々を楽しませる大中祭にしよう」との呼びかけがあり、あらためてコロナ禍でできなかった生徒達の悔しい思いがあったのだと感じました。

合唱コンクールを含む学校祭は、普段の学習の成果や、生徒個々が持っている力を地域の方々等に披露できる貴重な機会です。また、生徒一人一人が、自分にできることに精一杯取り組むことで、自分の「色」を出すことができると思います。是非、今年度のテーマを体現した大中祭となることを期待しています。



相手をリスペクト（尊重、尊敬、敬意）する

夏休みに入る前に行われた全国高校野球熊本大会での出来事をご紹介します。

7月13日に熊本県営八代野球場で行われた全国高校野球熊本大会の2回戦、翔陽高校対八代高校の最終回に、対戦相手をリスペクトする行動がありました。試合後の八代高校の監督の談話では「試合には勝ったが、翔陽さんの行動には負けた。素晴らしい人間性があるチームだった。」と…。

翔陽が3-6で迎えた九回表の攻撃。八代のエース投手は、マウンドで何度も顔をゆがめた。右脚のふくらはぎあたりがつっており、何度も脚を伸ばした。そんな中、翔陽は連続タイムリーで1点差に迫る。

このタイミングで、八代ベンチからも投手に水分が届けられた。すでに、投球数は160を超えていた。審判も投手に駆け寄り、投げ続けられるか投手本人に確認を行う。やがて、逆転のランナーを出しながらも、2アウトまでこぎ着ける。

そんな中、交代でベンチに下がっていた翔陽の投手がマウンドに駆け寄り、痛みに苦しむ八代の投手にペットボトルを差し出した。

(※もちろん審判の許可をとった上での行動です。)



「絶対にマウンドを降りたくない気持ちは分かる。正々堂々と勝負したかった」と。

この後、八代の投手は、翔陽の打者を三振に打ち取り、勝利した。「トーナメントの一発勝負で自分にはできない行動だった。おかげで最後まで投げ切れた」と感謝した。

さて、各運動部は、1、2年生主体の新チームにすでに切り替わっています。また、来月には地区秋季大会等が行われます。夏休みを含めた数ヶ月間の練習の成果を試す、あるいは、自分自身の「心・技・体」の成長を確かめるよい機会となります。今回紹介した出来事のように、仲間や対戦相手への敬意、応援してくれる方々への感謝の気持ちを忘れずに、試合に臨んでほしいと思います。